カトリック福岡教区報

ヨゼフ アベイヤ司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人　カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-4059
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　1部70円

ともに生きるために
「ラウダート・シ」発表から8年目によせて
福岡教区長　ヨゼフ・アベイヤ司教

教皇フランシスコは全世界の兄弟姉妹に向けて、すべての被造物を大切にするように呼びかけた。その回勅『ラウダート・シ―ともに暮らす家を大切に』が発布されて8年になる。

環境問題を抱え続ける私たちに、この回勅を思い起こし、具体的に行動を起こすことを教区長アベイヤ司教は呼びかけている。

「ラウダート・シ」公布から5年後の2020年5月31日に公開されたテキストの表紙

2015年5月24日、教皇フランシスコは、「ともに暮らす家を大切にする」ように呼びかけて『ラウダート・シ―ともに暮らす家を大切に』という回勅を発表されました。それは聖霊降臨の祝日でした。

「地球の叫び」や「貧しい人々の叫び」を心にとめて、それに応えるように教皇は呼びかけておられます。人類にとって緊急な課題です。幸いに、それに気づいている人々は増えています。回勅の中で教皇はこう書いておられます。「皆がともに暮らす家を保護するよう」は、人類家族全体を一つにし、持続可能で全人的な発展を追求するという切迫した課題に、それに気づいている人々は増えています。回勅の中で教皇はこう書いておられます。「皆がともに暮らす家を保護するよう」は、人類家族全体を一つにし、持続可能で全人的な発展を追求するという関心を含意しています。というのは、物事は変わりうると、わたしは知っているからです」（ラウダート・シ13）。

地球環境問題に対しての取り組みは、半世紀以上前からすでに国際社会で始まっています。国連総会は、すでに1972年12月15日に、6月5日を「世界環境デー」と定めました。さらに、2001年に国連でミレニアム開発目標（MDGs）が策定され、2015年9月の国連サミットにおいて、加盟国全会一致で「持続可能な開発のための2030年アジェンダ」が採択されました。その中に「持続可能な開発目標」（SDGs＝Sustainable Development Goals）が記載されています。

※アジェンダ＝ラテン語で「実行に移されるべき事項」

世界、そして日本のキリスト教会の取り組み

キリスト教会では、1989年に正教会が定めた「被造物のために祈る日」（9月1日）に始まり、2007年からは、カトリック教会以外のキリスト教各派がともに「被造物保護期間」（9月1日～10月4日）を実施するようになりました。2015年8月6日の手紙で、教皇フランシスコは「カトリック教会もほかのキリスト教会の動きに合流し、9月1日（日本の教会では、毎年9月の最初の日曜日）を『被造物を大切にする世界祈願日』に定める」と述べられました。

日本の司教団も、2021年3月17日に出版した『いのちへのまなざし』で、環境問題を取り扱っています。この本を使って様々な小教区やカトリック施設で、研修会や分かち合いが行われてきましたし、これらを通して既に実行されていた数多くの活動と信仰との結びつきに対する認識は深まりました。日本の教会でも、9月は「すべてのいのちを守る月間」と定められています。

☆いのちへのまなざし【増補新版】
日本カトリック司教団（著）

カトリック中央協議会発行
税込価格550円

すべてのいのちを守るために

根本的に問われているのは、神に最高の賜物として与えられているいのちに対する姿勢であり、行動です。すべてのいのちを大切にし、育むことは、信仰告白と言ってもいいと思います。いのちの与え主である神を賛美し、いのちを守り育む知恵を願い、いのちを大切にする行動を取る決意を新たにします。また、いのちを破壊することに対して戦う力を願い求めます。それは、私たちのライフスタイルを含めて、いのちの循環や被造物の調和を壊すものです。エコロジカル回心が必要だと教皇は訴えておられます。

皆さんは、多くの人々と力を合わせて様々な形で環境問題に取り組んでいると思います。これらの活動を通して、神とのつながりを深め、すべての人々との絆を強め、自然との調和を味わいます。それによって、神様が望んでおられる世界に近づいていきます。私たちが求めている幸せは、その中に秘められているのではないでしょうか。

『ラウダート・シ―ともに暮らす家を大切に』が発表されてから8年が経ちました。もう一度、そのメッセージを思い起こして、具体的な行動を続けましょう。

ヨゼフ・アベイヤ

※ラウダート・シ公布5年後に公開されたテキストは、左記QRコードからご覧になれます。

2021年8月6日に、当時の日本司教協議会会長の高見三明大司教様は「環境問題と福音化」という文書を発表なさいました。この課題に対する理解を深めるために大きな助けになります。福岡教区のホームページ（下記QRコード）からご覧ください。

☆回勅ラウダート・シーともに暮らす家を大切に
教皇フランシスコ（著）

カトリック中央協議会発行
税込価格1400円

※バチカンサイトでは日本語版が公開されており、下記QRコードから閲覧できます。

※ご利用の際の許諾（著作権）については、下記QRコードからご確認ください。

時の話題

コロナ禍における病床の信徒訪問

2020年の12月頃だったでしょうか、新型コロナウイルスの感染者が日本でも確認されると、瞬く間に感染が拡大していきました。

それまで、入院・入所されている病人さんへの訪問・面会を許可していた病院や介護施設が、軒並み訪問・面会を禁止するようになり、それが現在（この原稿を書いている4月時点）も変わっていません。

しかし、そんな中にあっても、①患者さん本人が危篤か、それに近い状態で、②その家族からの要請があり、③短時間なら、という条件付きで、病院や施設から許可をいただき、何度か〝病者の塗油〟の秘跡を患者さんに授けることはありました。

その一方で、（非常事態宣言発令中を除いて）自宅で療養されている病人の方たちに対しては、こちらから電話で連絡をとって、本人から承諾をもらった上で訪問し、ご聖体を届けてきました。感染のリスクを恐れてでしょうか、遠慮された方もいました。それはともかく、幸いなことに、私の訪問が原因で感染が拡がることはなかった模様です。

ところで、神学生時代に、危篤の信者の方たちへの対応について学びました。原則としては（？）、ゆるしの秘跡・病者の塗油・聖体拝領の3つを授与するというものでした。実際、儀式書の中では、そのような指示がなされています。

しかし、実際のところ、病者の塗油を行うために訪れた患者さんは、呼吸器を装着されていたり、食べ物が喉を通りにくかったりという状態の患者さんばかりで、聖体拝領はできないというのが現実だと思われる場合がほとんどです。

新田原教会
主任　井手公平神父

聖ペトロ使徒座への献金

（聖ペトロ 聖パウロ使徒の祭日または直前の日曜日、2023年は6月25日）

聖ペトロ使徒座

教皇は毎年、世界各地を訪問して、人々の苦しみや悩みを聞き、優しい笑顔で力づけ、数々の援助を与えます。キリストの代理者、教会の最高牧者である教皇は、祈りと具体的な援助を通して全世界の人々にいつも奉仕し寄り添っているのです。

教皇のこうした活動のために、8世紀頃イギリスで、大人も子どもも一番小さなお金である1ペニーを毎年教皇に献金する運動が始まり、これがもとになって世界中に広まったのが「聖ペトロ使徒座への献金」です。

教皇に心を合わせて、世界中の苦しんでいる人々のために祈りと献金を捧げましょう。

―お詫びと訂正―

5月号・訃報のお知らせで、Sr. 中吉エミ様を「シトー会伊万里の聖母修道院」と掲載しておりましたが、正しくは「女子跣足カルメル修道会・カルメル山の聖母修道院」の誤りでした。

謹んで深くお詫び申し上げます。

6月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【教皇の意向】拷問の廃止

【日本の教会】聖霊の恵み

みちくさ

今年5月14日、教会は第57回世界広報の日を迎えました。世界ではマスメディアの面でも技術の面でも特異な年となるかもしれません。それは、ニュースでもよく話題になるChat GTPをはじめ、多数のAI（人工知能）が大衆に注目され、一般公開されたからです▼Chat GTPとは、機械的な言葉でなく私たちが使っている「自然な日常の言葉」を駆使できるAIです。しかも、以前の問いかけに応える対話型AIと違い、テーマを投げれば、人間の代わりにそれについて小論文を書けるほどの知識と能力を持っています。さらにこのAIは無料で、誰でも利用できます▼これは私たちとどのような関係にあるでしょう。実際、福音宣教の意味で非常に重要だと思います。使徒パウロは福音宣教のために、直接あちこちに出向きましたが、もう一つの手段として「手紙」を利用しました。また、マキシミリアノ・コルベ神父も福音宣教の手段として「小雑誌」を利用しました。今日では、インターネット、YouTube、スマートフォンなどの手段も利用されています。Chat GTPをはじめとするAIも、このような福音宣教の手段として使用できるでしょう▼しかし、料理のための包丁が人を殺す道具にもなりうるように、Chat GTPを利用してフェイクニュース（誤報）を量産して流し、他人に害を与える用途で使われたりすることも起こっています。AIではそれが良いか悪いかまでは分からないからです。世界広報の日を迎え、私たちはこれら現代技術の発展に、よく注視する必要があるでしょう。（J）

福岡教区のアプリができました。スマートフォンで教区情報を簡単に得ることができます。詳細は教区ホームページでご確認ください。

◆ 福岡教区宣教司牧方針を受けて ◆

2022 年 4 月、福岡教区の「宣教司牧方針」が発表されました。教区報では、「宣教司牧方針」を受け、各小教区や団体で取り組んでいること、心がけていることなどについて、具体的な活動を紹介しています。

「宣教司牧方針」は右記 QR コードからご覧になれます

様々な活動にチャレンジ ―玉名教会―

令和４年１月の福岡教区報にアベイヤ司教様の言葉「教会は自分のためにあるのではありません。社会の中で神の愛を証し、福音を伝えるためにあるのです」には司教様の意気込みを感じました。去年の 11 月から新しい典礼を神父様と始めています。教区の方針に合わせて、新しい典礼聖歌も、パンフレットを作り、音楽委員長をリーダーにミサ前に一曲ずつ練習し、ミサの中に取り入れています。信徒それぞれが役割を生かして、外からの新しい方々を共同体として迎えることができています。

お好み焼きに舌鼓

新しい典礼、ミサ曲によって今年の復活祭は荘厳なミサとなり、その後は外でパーティーをして祝いました。新しい方やケニア、インドネシア、ベトナム、フィリピンなど外国の方々と一緒にお好み焼きを作るなど、飲食をともにし喜びを分かち合うことができました。

毎週金曜日は、ミサの後「みことばの勉強会」と題して、次週のパンフレットの福音を味わっています。その中の月１回は司会を置き、信仰や社会の課題を取り上げ分かち合います。前回はシュバイツァー寺へ行き、日本の死刑廃止に尽力しておられる住職・古川龍樹氏の話を聴きました。

玉名教会は、近くのルーテル教会と「平和の祈り」をこれまで 28 回行ってきました。29 回目の今年はカトリック教会で行います。また、コロナ禍で止まっていたクリスマスコンサートも今年は行う予定です。

今までの歩みを大事にし、行事やイベントの回復をめざし、教会共同体のこれからが元気になるようにいろいろな活動を考えていきたいと思っています。

宣教司牧部担当者：C. クラウディオ神父、玉名教会：福永 眞佐栄

福岡教区　現勢報告　2022年
（2022年１月～12月）

	教会名	在籍信徒数 男	女	合計	居所不明者	死亡	洗礼 幼児	成人	ミサ参加者数 主日	復活祭	降誕祭
1	糸　島	192	241	433	70	3	1	3	70	120	180
2	大　楠	156	208	364	58	2	0	0	70	180	280
3	古　賀	410	531	941	44	10	0	2	135	251	350
4	笹　丘	323	477	800	49	7	0	0	115	170	200
5	浄水通	256	389	645	142	1	4	4	100	100	200
6	大名町	920	1,534	2,454	50	20	6	9	340	700	1,070
7	高　宮	235	355	590	11	11	3	9	120	150	180
8	茶　山	142	172	314	5	3	1	0	70	110	104
9	西　新	510	773	1,283	0	15	2	8	200	200	260
10	箱　崎	187	211	398	0	0	3	6	80	90	90
11	光　丘	507	585	1,092	89	5	1	0	133	255	347
12	吉　塚	225	310	535	93	11	6	1	105	165	185
13	老　司	239	279	518	5	5	1	5	52	11	399
	福岡地区計	4,302	6,065	10,367	616	93	28	47	1,590	2,502	3,845
14	今　村	370	500	870	0	14	0	0	70	150	200
15	大牟田	138	229	367	31	1	1	2	90	100	100
16	小　郡	174	271	445	11	7	3	0	120	180	230
17	久留米	517	700	1,217	8	16	12	6	270	440	543
18	二日市	232	304	536	57	2	1	3	80	200	150
19	本　郷	266	341	607	0	7	2	5	40	160	160
	筑後地区計	1,697	2,345	4,042	107	47	19	16	670	1,230	1,383
20	飯　塚	138	179	317	0	3	1	2	50	120	100
21	黒　崎	375	540	915	180	16	0	2	130	200	200
22	小　倉	779	1,110	1,889	193	25	1	1	180	250	390
23	新田原	684	765	1,449	136	15	0	0	220	403	352
24	田　川	43	52	95	24	2	1	0	30	50	50
25	天神町	71	118	189	40	5	0	0	50	100	100
26	戸　畑	170	242	412	0	7	2	0	110	110	200
27	直　方	94	93	187	56	1	1	1	50	70	70
28	水　巻	321	405	726	114	4	1	1	80	118	200
29	門　司	193	262	455	123	6	0	0	60	120	171
30	湯　川	409	510	919	203	9	2	1	80	184	180
31	行　橋	403	450	853	49	6	3	1	280	350	450
32	若　松	99	152	251	0	5	0	1	45	70	80
	北九州地区計	3,779	4,878	8,657	1,118	104	12	10	1,365	2,145	2,543
	福岡県合計	9,778	13,288	23,066	1,841	244	59	73	3,625	5,877	7,771
1	伊万里	139	164	303	59	4	2	0	72	132	170
2	鹿　島	27	29	56	0	0	0	0	10	20	20
3	唐　津	194	201	395	67	4	1	1	40	75	80
4	佐　賀	257	414	671	92	5	3	2	90	120	225
5	多　久	64	71	135	42	0	1	1	15	25	25
6	武　雄	33	44	77	8	0	2	1	15	30	30
7	鳥　栖	155	223	378	11	1	0	0	70	130	150
8	馬渡島	74	70	144	51	4	2	1	50	50	80
9	呼　子	187	189	376	0	6	1	0	60	60	90
	佐賀県合計	1,130	1,405	2,535	330	24	12	6	422	642	870
1	荒　尾	10	27	37	13	3	0	1	35	35	35
2	大　江	90	162	252	0	7	0	0	35	50	50
3	帯　山	120	163	283	87	3	0	0	60	100	90
4	菊　池	37	59	96	36	4	0	0	46	68	59
5	健　軍	75	145	220	134	4	2	2	60	60	80
6	崎　津	72	97	169	9	8	2	0	30	50	50
7	島　崎	125	197	322	0	4	4	4	60	80	90
8	玉　名	58	80	138	80	1	0	0	35	50	60
9	手　取	371	659	1,030	0	27	3	18	200	355	360
10	人　吉	57	75	132	10	0	0	2	35	50	60
11	本　渡	36	70	106	56	0	0	0	30	45	45
12	水　俣	27	40	67	0	1	0	0	17	22	30
13	武蔵ヶ丘	112	276	388	0	6	2	0	80	179	167
14	八　代	65	112	177	54	4	0	1	60	130	200
	熊本県合計	1,255	2,162	3,417	479	72	13	28	783	1,274	1,376
	教区総計	12,163	16,855	29,018	2,650	340	84	107	4,830	7,793	10,017

【注】　在籍信徒数は居所不明者を含めた数。主日ミサ参加者数は外国語ミサの参加者数を含まない。またミサの参加者数は、今なお続くコロナ感染症拡大防止への対応の数字が反映されていると思われる。

２０２２年は社会全体でコロナ感染対策を取りながらも規制緩和が進んでいった。２０２２年の教区現勢報告を見ると、主日ミサ参加者数の教区総計が２０２１年の４６４１人から４８３０人に増加している。洗礼者総数も１７９人から１９１人へと増えた。（下記グラフ参照）

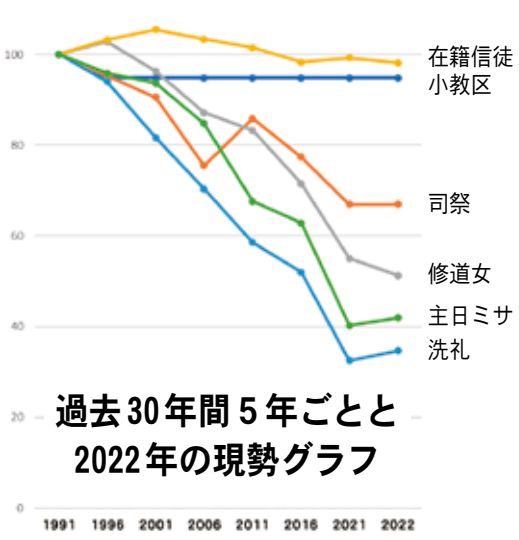
今年に入り５月には、ほぼすべてのコロナ関連の規制が解除され、教会に向かう足取りもさらに軽くなっているに違いない。主日のミサに全員が参加できるようになり、「新しいミサ曲」が声に出して歌われ始め、ミサ後の立ち話や打ち合わせ、信徒会館などでお茶を飲みながらの談笑や会合などが再開し、教会本来の日常が戻りつつあることが確認できる。

教区報２０２３年４月号には、３年ぶりの全国青年の集まり「ネットワークミーティングin福岡」の開催と、路上生活者支援「３年ぶりに開催されたスープの会」の記事が掲載されている。こうした活動の再開は、福岡教区宣教司牧方針の「共に歩む」、「出向いて行く」を目標に、教区や小教区が新しい試みを模索しながら進めていくであろう各種活動の先駆けのようである。

教区の現勢についてより深く知るには、教区報２０２２年６月号（２頁）の「２０２１年福岡教区現勢報告」で、過去30年間の教区現勢を５年毎に区切った表にしてこの期間の変化を詳しく分析しているので、ぜひ参考にしていただきたい。

広報委員会・委員
後藤田遊子（古賀教会）

福岡教区報は、教区報ホームページ（左記ＱＲコード）で１９５５年創刊号まで遡って閲覧することができます。



第１回　司祭評議会

４月25日（火）、大名町教会１階講堂にて今年度最初の司祭評議会が開かれた。司祭評議会は、全司祭を代表する23人の司祭の評議員で構成される教区司教の諮問機関で、年３回開かれる。

福岡教区には５つの委員会が設置され、それぞれに各部門がある。１．典礼委員会、２．宣教・司牧委員会…新福音化部門／信徒養成部門／聖体奉仕者・司祭不在の時の主日の集会祭儀の司会の養成部門、３．青少年委員会…青年部門／中高生・教会学校部門／召命促進部門、４．社会福音化委員会…カリタス部門／正義と平和・人権部門／難民移住者部門／障がい者部門、５．広報委員会。その他、諸宗教委員会などの教区本部直轄部門等（福岡教区ハンドブックを参照）。そして評議会では、それぞれの委員長や部門担当者から現状報告がなされた。

これらの組織による諸活動は、教会の成長や福音宣教にとって欠かすことができないものだが、現在の担当者はほとんどが司祭であり、広く信者の皆さんの協力が求められている。また、これらの企画や呼びかけ、報告は、教区報やホームページ、アプリなどでなされているので関心をもち、行動参加が求められる。

滞日外国籍の方の司牧についても意見交換がなされ、外国語ミサなどによる司牧の必要性が確認された。

訃報

ヨゼフ　山口　正美　神父
（聖アウグスチノ修道会）
５月９日帰天。享年77。１９４５年11月６日長崎市生まれ。大牟田教会出身。１９６３年４月アウグスチノ会入会、１９７０年８月28日初誓願。１９７５年11月24日長崎・城山教会で司祭叙階。２００６年から２００９年の間、笹丘教会で助任を務めた。

ニコデム　山口イキ　修道女
（聖母訪問会）
５月９日帰天。享年100。修道生活57年でした。

マリア・スザンナ　田中　シゲ子　修道女
（シトー会伊万里の聖母修道院）
５月14日帰天。享年93。修道生活65年でした。

マリア　出口ヤス　修道女
（マリアの宣教者フランシスコ修道会）
５月17日帰天。享年100。修道生活80年でした。

サンパウロ
福岡宣教センター
営業時間：
10：00～18：00（日曜日～16：00）
定休日：火曜日、祝祭日
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26
tel. 092-721-2032 ／fax. 092-739-3930
E-mail: fukuoka@sanpaolo.or.jp
レジナ アポストロールム

不動産全般／売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください
㈱ジャパン・スマイルか
代表取締役　マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092－761－8800
http://www.iruka-japan.com/

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　　・ＲＣ工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社　森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811－7265

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。
木下株式会社
ＴＥＬ 092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和３丁目1-5

福岡地区カトリック女性の会 第40回 総会

責務を果たし安堵の表情を浮かべる前委員たち

4月22日（土）、大名町教会で司教臨席のもと、90名の参加を得て福岡地区カトリック女性の会（同伴司祭、レナト・フィリピーニ神父）第40回総会が開催された。

2022年度の報告、会則の一部変更に続き2023年度活動計画など全てが承認された。質疑の中で参加者から日本カトリック女性団体連盟が制定する「4・25いのちの日」について、女性だけでなく、男性も、家庭でもみんなでいのちについて考える大切さを説かれる場面があり、改めてその日を考える機会となった。

今年度の女性の会のテーマは、教区の司牧方針「出向いて行く教会」にちなみ「共に祈り、考え、出向いていこう」であり、「いのちの基金、施設訪問、ホームレス支援の手伝いなど、会員同士の積極的な協力のもと、前に進めていきたい」との薬真寺真理枝新会長（光丘教会）の言葉があった。

3期6年に渡って会長職を務めた川原圭子前会長（笹丘教会）をはじめ、多くの委員が新委員に次を託して退任した。コロナ禍にあった3年を支えた委員には、かつてこれほどまでに柔軟性やリーダーシップを求められることはなかっただろうと、その重責を想像する。細やかで配慮ある対話や何事も率先して行動する姿は、このひととき、一瞬のものではない。その優しさとたくましさの姿勢に女性の会の精神を感じ、まさに、祈り・考え・出向く姿を目にした。

報告＝浄水通教会　小澤直子

新しい出会いと、笑い声にあふれた青年会歓迎会

ネモフィラも笑顔も咲いた！

4月23日（日）、福岡地区青年会主催で新青年歓迎会が海の中道海浜公園で行われ、熊本や福岡地区から24人の青年とコレジオ生が参加した。

参加者は大名町教会からマイクロバスで出発し、まずは他己紹介で自分と隣の人の共通点を交えてお互いを紹介しあった。お互いにインタビューするうちに意外な共通点を発見して盛り上がった。

園内の広場での昼食後は、大縄跳びやだるまさんの1日（「だるまさんが転んだ」に変化を加えて）、ハンカチ落とし、ご復活ゲーム（鬼に捕まるとその場で止まって助けを待ち、他の参加者にタッチされると再び逃げることができる「氷鬼（こおりおに）」というものに、今回は、捕まった時は自分の教会の十字架のイエスのポーズで待ち、助ける人は「ご復活！」と言ってタッチする）と、かなり体力を使う内容だったが、この3年間できなかった分、広い公園で思い切り走って笑って楽しく体を動かした。その後は各自で園内を散策し、満開を迎えたネモフィラを見たり、園内の動物園や植物園に行ったりと思い思いに過ごした。

最後に取ったアンケートは「楽しかった！」が圧倒的で、「初めて会う人もいたけど話が弾んでよかった」「またみんなに会いたい」という意見も寄せられた。

今回参加した青年の多くが10代から20代前半の若手だったことが本当に嬉しく、地区を越えての交流ができたので、今後もこの繋がりを継続できるようにしたい。

報告＝笹丘教会　峯晶子

―アースデイ― 近くの海岸のごみ拾い

地域、教会共同体、そして神様と繋がって

4月23日（日）の主日ミサ後に、行橋教会の有志約50人が、近くの箕島（みのしま）海岸へ行き、ゴミ拾いを行った。

春の陽気と爽やかな風の中、1時間位の活動に汗がにじんだ。ガラスやプラスチックの破片から2人がかりで運んだ流木や木片、様々なゴミが山積みされた。しかし、皆には疲労感は無く、むしろ爽快感で満ちていた。

「アースデイ」と称するこの活動は約20年前から行っているもので、途中、コロナ禍で3年間中止されたが、今年は行うことができた。活動の目的は地域社会への貢献であり、実施を通して教会共同体のつながりを強めるためである。「昨今はどこもきれいにされているようであるが、それでも意を決してこの活動を推し進めることは大事なことだ」とか、「創造主なる神に対して恩返しの一助になる」などの声が聞こえていた。「出向いていく教会共同体」を垣間見せた有志の姿に身の引き締まるような思いがした。

行橋・豊津教会　主任　下町豊重神父

知りたい！ 福岡教区内の修道会 宣教会⑭

福岡教区には現在30の修道会・宣教会から司祭・修道士・修道女が派遣され、それぞれのカリスマで働いておられます。

昨春より紹介している、その修道会や宣教会。第14回は、聖心のウルスラ宣教女修道会です。

聖心のウルスラ宣教女修道会

聖心のウルスラ宣教女修道会は、女子の活動修道会の草分けの一つとして、16世紀のイタリア・パルマにて誕生しました。当時はまだ女性の社会進出は進まず、教会は塀の中で生活する女子観想修道会しか認可していない時代でした。そのため本会は、パルマ侯爵ファルネーゼ公の庇護の下に始まることになりました。

初期の同志たちは自らを「パルマの町の燭台に置かれた灯」と認識しつつ、私的な誓願のもとで教会奉仕と女子教育の分野で目覚ましい活躍を始めました。社会のうちに人々とともにあること、そこで奉仕することが、彼女たちの湧き上がる喜びでした。

最初のミッショナリーたち。黒い服が本会のシスター

数世紀を経て、教会の認可を得、遠く日本に至るまで召命の種は蒔かれ、日本管区は2022年に宣教70周年を祝いましたが、この使徒的な奉仕の精神は今に至るまでウルスラ会の中心です。その根幹を支えているのが、創立からの霊性である聖イグナチオの精神です。本会は世俗の中で何が神の御旨かを識別しながら、その歩みを続けてきました。学校や幼稚園、教会で、私たちの活動の内容が時代や文化とともに大きく変わっても、その表面的な部分の向こうに、変わらない本質があります。それは「パルマの町の灯」、自らを神の恵みで輝かせて、その光で人々を照らすという使命です。

子どもたちと共にいる時、人々に寄り添う時、私たちは心からの喜びを頂きます。それは神さまから与えられた私たちの召命、恵みなのだと思います。高齢化や召命の減少という逆境の中で、もどかしさや困難さを感じる事があっても、この喜びだけは私たちの心に燃えつづけています。

Sr. 岸　里実

終生誓願から50年　ダイヤモンド祝を迎えて

司教様、大楠教会主任司祭パウロ神父様をお迎えし、サプライズで来られた桑原助祭様は喜びを倍にしてくださり、誓願50周年の感謝のミサをお捧げできたことは大変嬉しいことでした。初誓願の日、母と並んで入堂する心の中で「主よ、私をあなたの道具にしてお使いください」と祈りながら廊下を歩いたことを思い出していました。温かな雰囲気に包まれたミサ後の小さなパーティーは家族的で人と人とがつながり、楽しいものとなり、参加して下さった皆様は笑顔が溢れていました。次の日の朝の目覚めの時、何だか初誓願の次の日のような心持ちで、どんなに神様に愛されているかしみじみと思いめぐらし、新しい一日を歩き始めました。

Sr. 植木胎子

修道誓願50周年を迎え、尽きない感謝のうちに祈っております。振り返って私の未知の日々は遠く、本当にすべては、神の御摂理の賜物であったことを有難く思います。今年は聖心のウルスラ宣教女修道会の第2の創立者とも言われる、マードレ・ルクレチア・ジレリーが帰天され100周年を迎えます。このお恵みの年に神様への奉献の日々を、“道であり真理であり命である主”の聖心に沿うよう召された、私を含め一人ひとりの姉妹が忠実に生き方を通して、人々の霊魂の救いの為にお手伝いができますように…、皆さまどうぞお祈りをよろしくお願いいたします。

Sr. 藤﨑多恵子

今回誓願50周年を迎えた私たちはこの50年間、様々な場所に派遣され、奉仕活動を経て現在福岡修道院で一緒に過ごしています。先日、司式ヨゼフ・アベイヤ司教様、共同司式パウロ・マスカルナス神父様（大楠教会）、桑原篤史助祭様（笹丘教会）で誓願50周年ミサをして頂きました。参加者が制限される中ではありましたが、総長・管区長、そして姉妹方、この50年前より出会ったボランティアの皆様方の温かな愛に包まれ、50年の恵みの豊かさを深く感謝いたしました。「私はまことのぶどうの木、あなた方はその枝である」（ヨハネ15の5）。これからの日々も、主の豊かな愛に繋がる者として、感謝のうちに祈りと奉仕に励んで参ります。

Sr. 野村光子

ぶどうの木の枝につながる笑顔の姉妹たち

BOOK 読みは専科

☆キリストとともに―世界が広がる神学入門

阿部仲麻呂（著）

身近な出来事を通じて「神さまのぬくもり」に目を開くために、現代のマインドフルネスやスローライフ、世阿弥・能の所作からシノドスの「シノダリティ」の意味まで、さまざまなキーワードをキリスト教の視点から明快に解説。愉しみながら学べる神学入門書である。広島教区・白浜満司教推薦。

オリエンス宗教研究所発行

税込価格2200円

広告掲載をご希望の方は
下記までお問い合わせください
福岡教区本部事務局　広報部
電話　：092-522-4059
メール：cdf-kouhou@nifty.com
※この枠で1回（ひと月）5,000円の献金（目安）をお願いしております。
※内容によってはお断りさせていただく場合もございます。あらかじめご理解とご了承のほどをお願いいたします。

広報室からのお願い
皆様のベストショットや、イラストをお寄せください。撮影された写真や書き溜めたイラスト（カトリック関係のもの以外でも）など大歓迎！教区ホームページや、教区報の挿絵、教区内（小教区、修道会、関係各所含む）配布の刊行物などに使用させていただきます。※作品は誰でも使用出来る「著作権フリー」の素材としてご提供をお願いいたします。
〔問合せ〕カトリック福岡司教区 広報部
Email：cdf-kouhou@nifty.com ☎ 092-522-4059

社会医療法人 雪の聖母会
聖マリア病院
〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942(35)3322　FAX.0942(34)3115
聖マリアヘルスケアセンター
〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5
TEL.0942(35)5522　FAX.0942(34)3306
信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん
ご一緒に働いてみませんか
URL：http://www.st-mary-med.or.jp/

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション
自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。
費用は医療、介護保険でのご利用になります。
春日市天神山7-91　TEL&FAX 092-517-6313
福岡プライマリケア株式会社　代表：エリザベト熊谷

年間目標　出向いて行く教会となる

2023年度 福岡教区神学生紹介

神学生と新たな召命のためにお祈りください。

◆イグナチオ 吉浦勲
（伊万里教会）
神学科３年

◆ヨゼフ・ヴォーターフォン
（ベトナム・ヴィン教区タイフォン教会）
哲学科１年　ベトナムで勉強中

※神学生志願者 ◆ペトロ・グエン・ハン・ソン
（ベトナム・ハーティン教区ドンソン教会）
福岡コレジオで日本語学習中

レジオマリエ　福岡クリア アチエス（聖母への奉献式）

［日　時］6月25日（日）14時～
［場　所］カトリック高宮教会
［内　容］奉献式とミサ　茶話会
［司　式］ヨゼフ・アベイヤ司教
［問合せ先］TEL090-9568-0076 野川
※レジオマリエ 会員、賛助会員及び、どなたでもご自由にご参加ください。

第80回　福岡典礼聖歌研修会

［日　時］6月25日（日）14時～
［場　所］カトリック浄水通教会
［内　容］「主日の答唱詩編」「新しいミサの式次第歌唱」
［講　師］深堀 純 氏　※参加費：感謝献金
［問合せ先］TEL092-541-3730 松山
※マスク着用・状況により中止・典礼聖歌集持参

― みことばのお弁当 ―

第３回「私たちの父よ」
日時：6月22日（木）10時～13時
場所：大濠カトリック会館
問合せ先：092-753-6765（大濠会館）

※お弁当は各自持参で

福岡教区広報室アドレス
http://fukuoka.catholic.jp
E-mail:cdf-kouhou@nifty.com

案内板　会合と催し　6月のこよみ

「福岡教区ハンドブック2023」お詫びと訂正

・P.48　カトリック福岡司教館
（加筆）洗礼者ヨハネ深堀勝人
・P.86　上智福岡高等学校
×学校法人明治学園→○学校法人上智学院
・P.107　教区司祭役務
×正義の保護管→○正義の保護官
×公証館　→○公証官
・P.107　司祭評議会　◇司教総代理、教区事務局長
（加筆）　大神学院司牧実習担当
・P.109　福岡教区宣教司牧評議会
北九州地区・地区長　×田中重治師→○下町豊重師
筑後　地区・地区長　×下町豊重師→○田中重治師
・P.117　（福祉法人）カトリック社会事業教会
×中村　影 師→○中村　彰 師
謹んでお詫びし訂正いたします。

真命山諸宗教対話センター　- 祈りの集い -

年間テーマ：聖性への招き
日　　時：6月8日（木）10時～15時
内　　容：三位一体の聖エリザベト
指 導 者：S.フランコ神父（聖ザベリオ宣教会）
次　　回：7月13日（木）
内　　容：聖マキシミリアノ・マリア・コルベ
指 導 者：園田善昭（コンベンツアル聖フランシスコ修道会）
問合わせ先：真命山諸宗教対話センター
☎0968・85・3100 FAX 0968・85・3186
熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
E-mail shinmeizan@gmail.com
☆個人またはグループでの黙想会、研修会も歓迎いたします（要予約）

1日（木）	聖ユスチノ殉教者　常任司教委員会（東京）
2日（金）	司祭生涯養成委員会、ラウダート・シ委員会（東京） †ヨセフ松永久次郎司教（2006年）
3日（土）	聖カロロ・ルワンガと同志殉教者 †V.マテオ（2002年 黙想の家）
4日（日）	三位一体の主日　唐津教会・堅信式
5日（月）	教区司祭黙想会（韓国・仁川、～9日） 聖ボニファチオ司教殉教者
7日（水）	†P.ダイヤモンド（2006年）
9日（金）	†P.デュノワイエ（2017年） †P.ヴィンチェンツォ（2021年）
10日（土）	豊津教会司牧訪問
11日（日）	キリストの聖体　佐賀教会・堅信式
12日（月）	†ピオ山口輝男（2021年）
13日（火）	SAGRADA FAMILIA展覧会・東京 聖アントニオ（パドバ）司祭教会博士
15日（木）	（宗法）幼稚園　園長会・理事長会
16日（金）	イエスのみこころ
17日（土）	聖母のみこころ †フランシスコ内山恵介（2021）
18日（日）	年間第11主日　武蔵ヶ丘教会司牧訪問 教区宣教司牧評議会
20日（火）	経済問題評議会
21日（水）	グァダルペ宣教会研修会・軽井沢（22日まで） 聖アロイジオ・ゴンザガ修道者 †パウロ牛尾幸生（2018年）
24日（土）	洗礼者聖ヨハネの誕生
25日（日）	年間第12主日　聖ペトロ使徒座への献金 レジオマリエ・アチエス（高宮教会）ミサ司式
26日（月）	†P.サレノヴィ（2004）
27日（火）	司教顧問会
28日（水）	聖イレオネ司教殉教者
29日（木）	聖ペトロ 聖パウロ使徒 †ラファエル鵜野泰年（2011年）

■ゴシックは司教日程

内容詳細は各問合せ先にお尋ねください。

◆福岡

■社会福音ネットワーク福岡〔日時〕6月3日（土）14時〔場所〕美野島司牧センター〔問合せ先〕☎090・6775・4268青木

■在世フランシスコ会〔日時〕6月10日（土）9時～〔場所〕高宮教会〔問合せ先〕☎080・5266・9048秦

■師イエス祈り会〔日時〕6月16日（金）10時ミサ後〔場所〕高宮教会・小聖堂〔問合せ先〕☎090・7468・3631西田

■福岡地区召命を共に祈る会〔日時〕6月20日（火）13時30分～ロザリオと分かち合い〔場所〕大名町教会小聖堂・1Fロビー〔問合せ先〕☎092・921・4532山口

■福岡チェナクルム〔日時〕6月21日（水）10時～〔場所〕大楠教会〔問合せ先〕☎090・5021・5907菊池

■福岡ホスピスの会「がん」を通し人生を語る会「ぬくみカフェ」〔日時〕6月24日（土）14時～16時30分※リモート開催・無料〔申込み〕terejia-tanopo@par.odn.ne.jpへ氏名記入で。〔問合せ先〕☎090・1162・6395柴田

◆北九州

■聖霊による刷新・福岡祈りの集い〔日時〕毎週月曜日11時～12時30分〔場所〕大名町教会1階講堂〔問合せ先〕092・521・2503蓮尾

■美野島司牧センター
○ホームレスの方に温かい食事と衣類　毎週火曜日10時
○ホームレス支援炊出し
調理　第1・第3金曜日14時
夜回り　20時から
○路上からアパートに入居した方を訪問　第3土曜日14時
〔問合せ先〕☎092・431・1419コース・マルセル神父

■聖体といやしの家
ご聖体のある家でミサと礼拝のある今を過ごしてみませんか？必要があればシスターや社会福祉士が同伴できます。
〔問合せ先〕☎080・4735・6971礼拝会

■北九州召命を共に祈る会〔日時〕6月1日（木）14時～〔場所〕小倉教会〔内容〕谷口尚志神父（水巻教会主任）、徐仁徳神父（戸畑・若松教会主任）共同司式によるミサと茶話会〔問合せ先〕☎0949・24・9905藤井

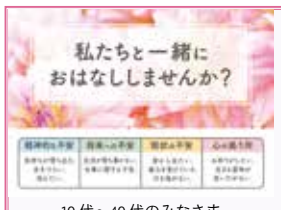
◆熊本

■熊本地区召命を共に祈る会〔日時〕6月19日（月）9時50分～ロザリオ・召命祈願ミサ〔場所〕手取教会〔問合せ先〕☎0969・79・0015大江・﨑津・本渡教会主任、浦川務神父

編集後記

皆さんは「晴れ男・女」「雨男・女」どちらですか？私は一緒だった人や、何をしたかの記憶ばかりが鮮明で、天気のことまで覚えていません（笑）。

先日、自他ともに認める「雨男」以上の「嵐男」さんと畑仕事をご一緒し…。泥だらけの作業となりましたが、また一つ楽しい思い出が増えました。全ては神のみ旨と恵み。鬱陶しい梅雨の季節ですが、楽しく過ごせますように。(W)



10代～40代のみなさま
こんな悩みをお持ちでないですか？
相談は無料です。
必要に応じて専門機関の情報提供もいたします。ひとりで悩まずに、お気軽にご相談ください。秘密は厳守します。

安心してお話が出来る人をお探しの方へ。
メール：hanahanahimawari2020@gmail.com
☎：080-4735-6971（9:00－21:00）
※対応できないときもあります。
※原則1回30分です。
LINE 右記
QR コード
―ぶろじぇくとHana―
ぶろじぇくとHanaは、社会福祉士・看護師・シスターなどが在籍している、礼拝会を中心としたグループです。

福岡教区セクハラ対応窓口
セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談ください。ひとりで悩まず、早めに相談
セクシュアル・ハラスメント相談窓口
電話　080-2694-4182
受付時間　月～金（祝日を除く）
10:00～12:00　13:00～16:00

Kurume Catholic Church Filipino Community

“近い将来、タガログ語のミサが捧げられますように” Gina Yayoshi（The Philippines）

Ang Simbahang Katoliko ng Kurume ay matatagpuan sa Kurume Meijidori. Ito ay napaka ganda at malaking simbahan. Maraming mababait na Katolikong Hapon at matulungin na naging mga Kura Paroko. Noong 1984 ay hindi pa karamihan ang mga Pilipino dito sa Kurume, iilan lamang kaming nakakadalo sa misa sa araw ng Linggo. Nahihirapan man kaming umintindi sa wikang Hapon na misa ay sinikap namin na makapagsimba kami tuwing Linggo sa wikang Hapon. Kami ay trinatong mabuti ng mga Parokyanong Hapon.Tinuring nila kaming hindi iba sa kanila, at pati na ang mga naging Pari ng aming Simbahan. Alam nilang kami ay nahihirapan sa pag sasalita at pagbabasa sa mga lituruhiya.

Noong 1986, kami ay pinagkalooban na magkaroon ng English Mass sa tuwing ikatlong Linggo ng buwan. Dahil dito, dahan-dahang dumarami ang mga Pilipino na nagsisimba at lalong naging maganda ang komyunikasyon ng Japanese Community at Pilipino Community. Naki-isa na rin kami sa mga gawain sa simbahan, tulad ng paglilinis, mga preparasyon sa Holy Week, pati na ang aming mga anak ay naipasok sa Sunday School. Meron din mga nabinyagan, nakapag Kumpil , komunyon at iba pa. Gayon din ang asawa namin na Hapon ay may nabinyagan rin at nakiki- isa na rin sa pagbasa ng liturgy. Nagkaroon kami ng mga aktibidad sa Simbahan, tulad ng pag - aaral ng Bibliya.

Taon 2011 ng kami ay humingi ng permiso sa aming dating Kura Paroko na ilagak ang Imahe ng Divine Mercy sa Simbahan at ito ay ilibot sa mga tahanan ng kapwa ko Pilipino,at kami ay pinaunlakan ni Fr. Moriyama na ngayon ay isa ng Bishop, at sa tulong ng aming Kura Paroko ngayon na si Fr. Miyazaki ay patuloy namin inililibot ang Imahe para sa pananampalataya ng lahat at madala namin sa simbahan ang iba pa naming mga Katolikong kababayan.

Taon 2015 ay patuloy ng dumami ang mga nagsisimbang mga Pilipino sa Kurume tulad ng OFW, ang aming mga kababayan na nagtratabaho dito bilang Farmers at iba pa. Kami ay pinaghandaan ng aming Kura Paroko ng Mass Guide na nakasulat sa Romaji sa wikang Hapon, English at Tagalog para mas maintidihan namin ang misa. Sa tulong ng mga naging Pari namin ay lalong naging maganda at nagka- isa ang Japanese Community at Pilipino Community at iba pang mga foreigners. Hiling namin sa Panginoon, na sa darating pang mga araw ay magkaroon nawa kami ng Tagalog Misa at madagdagan kami ng Pilipinong Pari sa hinaharap na henerasyon dito sa Fukuoka Kurume.

久留米カトリック教会は久留米市にある美しい教会です。1984年当時、久留米にフィリピン人は少なく、私たち数人だけが日曜日のミサに参加していました。日本語のミサは難しかったですが、教会の人たちは親切で、キリストにある一つの家族とみなしてくれました。

1986年になると毎月第3日曜日に英語のミサが始まりました。教会に来るフィリピン人の数は増えていき、日本人とフィリピン人の交流はさらに良くなっていきます。以来、私たちは聖書の勉強、掃除、聖週間やクリスマスの準備など、教会の活動に参加しています。子どもたちは日曜学校に入学し、洗礼を受け、堅信し、聖体拝領をします。また、日本人の夫たちも洗礼を受け、共にミサに参加しています。

2011年には、現在の大分司教区の森山信三司教と現在の主任司祭の宮崎保司神父の協力を得て、当時の主任司祭の浦川務神父より、教会に「神のいつくしみの像」を安置し、フィリピン人同胞への伝道を許可していただきました。そのおかげで、カトリックの同胞たちに教会へ来るよう働きかけることができています。

満席のフィリピン・コミュニティーミサ

2015年にはミサに参加するフィリピン人の数は増え続けました。当時の主任司祭の森山神父は、フィリピン人のために、ローマ字、日本語、英語、タガログ語のミサ案内書を作成してくださいました。

今後、久留米や福岡にフィリピン人の司祭が増えて、私たちの国の言語であるタガログ語でミサを捧げることができるよう心から願っています。